

特定非営利活動法人

国境なき医師団日本

〒162-0045

東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田 FIRST 3階

Tel: 03-5286-6123(代表) Fax: 03-5286-6124

E-mail: office@tokyo.msf.org

www.msf.or.jp

メールマガジンのご登録はこちらから

国境なき医師団 メールマガ 検索



国境なき医師団の最新の活動をご覧ください。



Facebook
@msf.japan



Twitter
@MSFJapan



Instagram
@msf_japan



LINE
@msf_japan



YouTube チャンネル
国境なき医師団日本

活動 報告書

2020年度版(1月→12月)

特定非営利活動法人

国境なき医師団日本

Activity Report 2020

January-December 2020
Médecins Sans Frontières Japon



Contents

国境なき医師団とは／国境なき医師団憲章 About MSF / The Charter of MSF	3	新型コロナウイルス感染症対応報告 COVID-19 Response Accountability Report	16
会長・事務局長からのあいさつ Message from the President & the General Director	5	MSF日本の活動から Updates of MSF Japan	17
海外派遣スタッフ一覧 Field Staff Assigned by MSF Japan	6	謝辞 Acknowledgements	18
活動地からの声 Voice from the Field	8	企業・団体・個人のご支援方法・事例 How to Support MSF	20
財務ハイライト Financial Highlights	10	【MSFワールドワイド】 2019年 活動概況 MSF Worldwide Facts & Figures	22
財務報告 Financial Reports	12		

国境なき医師団とは

About MSF

医療援助を第一に

国境なき医師団(MSF)は、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。危機に瀕した人びとへの緊急医療援助を主な目的とし、医師、看護師をはじめとするスタッフが、世界約70の国と地域で援助活動を行っています。1971年にフランスで設立されました。

独立・中立・公平

MSFは誰からも干渉や制限を受けることなく、助けを必要としている人びとの元へ向かい、人種や政治、宗教にかかわらず、分け隔てなく援助を届けます。

世論に訴える

援助活動の現場では、虐殺や強制移住など激しい人権侵害を目の当たりにすることもあります。MSFはそのようなとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言します。

国境なき医師団憲章

The Charter of MSF

国境なき医師団は苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて差別することなく援助を提供する。

国境なき医師団は普遍的な「医の倫理」と人道援助の名の下に、中立性と不偏性を遵守し、完全かつ妨げられることのない自由をもって任務を遂行する。

国境なき医師団のボランティアはその職業倫理を尊び、すべての政治的、経済的、宗教的権力から完全な独立性を保つ。

国境なき医師団のボランティアはその任務の危険を認識し、国境なき医師団が提供できる以外には自らに対していかなる補償も求めない。

アマゾン川流域で小型船に乗り、医療を届けるMSFと地元の保健局のスタッフ。©Diego Baravelli

表紙：個人用防護服を身につけ、活動にあたるMSFのスタッフ。©Anna Pantelia/MSF

裏表紙：シエラレオネのMSFの病院で、栄養治療を受け、無事回復した4歳の男の子。©Peter Bräunig

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、多くの課題に直面しながらも、 国境なき医師団は世界中でさまざまな命の危機に対応し続けました。

国境なき医師団(MSF)スタッフを代表して、2020年に賜りました温かいご支援に心より御礼申し上げ、活動のご報告をいたします。

2020年、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が猛威を振るう中でも、世界70を超える国と地域の人びとに医療人道援助を届けることができたのは、皆さまのご厚情の賜物に他なりません。

昨年、内戦が続くイエメンへ日本から派遣され、新型コロナウイルス感染症に対するプロジェクトを統括したスタッフは、酸素ボンベが足りずに集中治療室のベッド数を制限せざるを得ないこともあったと、その無念さを語りました。しかしそのような限られた状況下でも、各地で最善を尽くし、治療を終えて笑顔で退院する多くの患者さんを送り出すことができたことは、私たちにとって何よりの励みになりました。

一方で、紛争が続くシリアやエチオピアに加えて、マラリアをはじめとする感染症で多くの子どもたちが命を落としているナイジェリアや南スーダン、コンゴ民主共和国、地中海を命がけで渡った難民や移民が過酷な暮らしを強いられているギリシャ……。他にも数多くの地域では、新型コロナウイルス感染症流行以前から人道危機が続いています。

このような命の危機にある人びとに医療を届け続ける、という思いのもと、MSFは世界各地での医療援助活動の継続にも注力しました。しかし、国境封鎖によるスタッフの移動制限、マスクなどの医療用防護具の不足や価格高騰、世界中の活動地での感染予防・制御対策など、感染症拡大の影響は大きく、数多くの課題に直面した1年でもありました。2021年現在も、世界中の活動地でスタッフたちが最善を尽くしています。

また昨年来、世界中が注目しているのが、新型コロナウイルス感染症のワクチンや治療薬の普及です。MSFは、多額の公的資金を受けて研究開発されているこれらのワクチンや治療薬が、知的財産権によって独占されることなく、「世界の公共財」としてあらゆる地域の人びとに行き渡るよう、各国政府をはじめとした国際社会に求めています。新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)は、全ての地域で終息しない限り、終息したことにはなりません。利益確保より人命の優先を——。昨年同様、この声を皆さまと共に強く社会に訴えていきたいと思います。

2021年、MSFは1971年12月にフランスで創設されてから50年の節目を迎えます。独立・中立・公平な立場で援助を提供するという変わらない理念のもと、私たちはこれからも一人でも多くの命を守るよう全力で活動을続けてまいります。

50 YEARS OF HUMANITY
設立から50年を迎えました



国境なき医師団日本
会長

久留宮 隆

Takashi Kurumiya MD
President
Médecins Sans Frontières Japon

久留宮 隆



国境なき医師団日本
事務局長

村田 慎二郎

Shinjiro Murata
General Director
Médecins Sans Frontières Japon

村田 慎二郎

2020年、国境なき医師団(MSF)日本からは、75人(延べ106回)の、30の国と地域への派遣が決まりました。



©Hannah Wallace Bowman/MSF
地中海の捜索・救助船で人びとをケア
【リビア/助産師】

ハイチ

熊澤 ゆり(財務コーディネーター)
園田 亜矢(ヘルスプロモーター)
吉野 美幸(外科医)

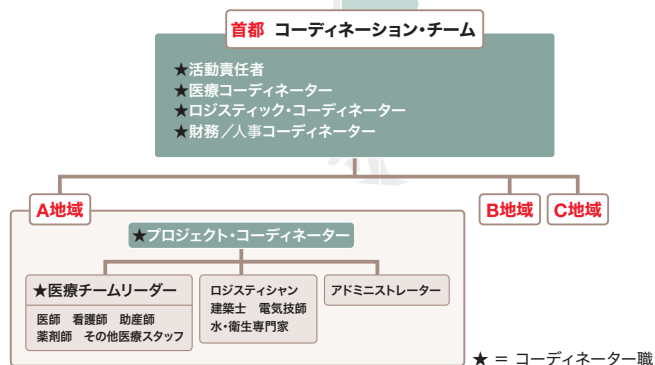
ブラジル

大塚 千亜希(アドミニストレーター)



©MSF
難民キャンプの病院で医療を提供
【南スーダン/麻酔科医】

MSF 現地活動組織図



MSF日本 職種別派遣回数

医師	19回	副活動責任者	3回
看護師	18回	薬剤師	3回
ロジスティシャン ※1	11回	ヘルスプロモーター ※4	3回
アドミニストレーター ※2	10回	疫学専門家	3回
プロジェクト・コーディネーター	8回	活動責任者	2回
その他のコーディネーター ※3	8回	病院責任者	2回
医療チームリーダー	8回	臨床心理士	2回
助産師	6回	合計	106回

2020年の初回派遣割合
約21% (16人)

シリア

菊地 寿加(看護師)
真山 剛(救急医)
高橋 千恵(アドミニストレーター)

イラク

福岡 一美(手術室看護師)
橋本 拓磨(手術室看護師)
神徳 隆之(救急医)
錦織 智子(ヘルスプロモーター)
落合 厚彦(プロジェクト・コーディネーター)
大竹 優子(手術室看護師)※同国2回
佐藤 太一郎(看護師)
吉田 照美(看護師)※同国2回

アフガニスタン

伊藤 洋子(アドミニストレーター) 山住 邦夫(建築士)
岩元 祐太(内科医)
李 亘(フライト・コーディネーター)

イラン

倉内 瞳(医療チームリーダー)

パキスタン

アサニ 美里(病院責任者)
濱川 伯楽(産婦人科医)
下山 由華(プロジェクト・コーディネーター)

イエメン

伊達山 光(アドミニストレーター)
萩原 健(副活動責任者、活動責任者)※同国2回
岩元 祐太(疫学専門家)
小篠 哲子(助産師)
倉之段 千恵(手術室看護師)※同国2回
丸井 和子(ロジスティシャン)
大谷 敬子(医療チームリーダー)※同国2回
下野 理紗(助産師)
滝上 隆一(外科医)
土岐 翠(助産師)
バヴェル・ウサニン(外科医)
吉田 文(医療チームリーダー)

日本

道津 美岐子(プロジェクト・コーディネーター)
スー・ミヤット・ハン(疫学専門家)
畑井 智行(看護師)※同国2回
曳田 彩子(内科医)
井田 覚(活動責任者、プロジェクト・コーディネーター)※同国2回
國吉 悠貴(助産師)
倉之段 千恵(手術室看護師)
西野 恭平(医療チームリーダー)
下山 由華(プロジェクト・コーディネーター)
高谷 紗帆(内科医)
吉田 ゆかり(看護師)



©MSF
新型コロナウイルス感染症の重症患者に対応
【イラク/手術室看護師】

ミャンマー

曳田 彩子(内科医)

フィリピン

末藤 千翔(プロジェクト・コーディネーター)

カンボジア

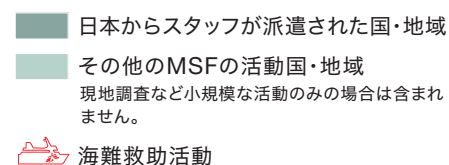
近江谷 健介(ロジスティシャン)

バブアニューギニア

鶴川 竜也(内科医)



©Gilbert Berdon/MSF
避難民の人びとに医療を提供し、感染予防も啓発
【フィリピン/プロジェクト・コーディネーター】



※リストには2020年に派遣が決まった人を記載。

海外派遣スタッフを募集しています。

MSF日本では、世界各地で活動を行う医療従事者(医師、助産師、薬剤師、臨床心理士など)およびロジスティシャン、アドミニストレーターなどを常時募集しています。お気軽にお問い合わせください。

E-mail: recruit@tokyo.msf.org
www.msf.or.jp/team_msf/



※1 ロジスティシャン: 物資調達、施設・機材・車両管理等、状況に応じて医療以外の業務全般を担当。

※2 アドミニストレーター: 現地活動の財務・会計・人事管理を担当。

※3 その他のコーディネーター: 活動責任者・副活動責任者およびプロジェクト・コーディネーター以外のコーディネーター職。

※4 ヘルスプロモーター: コミュニティ内の健康教育・開発活動を担当。

日本から派遣された海外派遣スタッフ2人が、
2020年の活動を報告します。

次々と運ばれる 新型コロナ重症患者 チームで難局に立ち向かった

佐藤 太一(看護師/イラク)

2020年7月から約3カ月間、イラクの首都バグダッドの病院で、集中治療室(ICU)の看護師として活動しました。現地では当時、1日に4000～5000人もの新型コロナウイルスの新規感染者が確認されており、国境なき医師団(MSF)は現地保健省の新型コロナウイルス感染症の患者だけを受け入れる病院の支援を始めました。しかし、重症患者の数に対して医療者の数や医療物資が圧倒的に不足しており、手を尽くしても次々に亡くなっていく患者さんを見ながら何度も悔しい思いをしました。20代でICUに入院していた患者さんは、印象に残っている一人です。新型コロナウイルス感染症による肺炎で呼吸困難があったのに、長期間自宅経過を見ていたようです。来院した時点で既にかなり重症で、一度は何とか持ち直して改善傾向になりましたが、病状が再度悪化。この時には、なすすべなく亡くなりました。一時は会話もできる程度に回復し、いろいろ

な話をただけに、やりきれない思いでした。

患者さんのそばにずっと付き添っている家族も精神的、肉体的に疲弊していました。目の前で愛する家族が亡くなった時、そばにいる医療者が責められることもありましたが、チームはできるだけ患者さんのところへ行って家族の声を聴くようにしました。また、亡くなった際は現地スタッフが家族への説明や心のケアなど、献身的に動きまわりました。苦しい時期が続きましたが、9月ごろには医療チームの人数が増えて医療を安定して提供できるようになり、新型コロナウイルス感染症専用の新棟も完成。より多くの命を守れるようになりました。

今回は、限られた医療資源の中で「一人でも多くの人を救う」という大きなニーズと、「目の前の一人の患者を救う」という両立が難しいニーズの間でジレンマに苛まれました。また、救えなかったたくさんの命を前にして、自分がここに来た意味を自問自答する日々でもありました。葛藤を抱えながらも、チームでスピード感を持って一つずつ課題をクリアできたことは、とても良い経験になりました。

無事回復し、ICUから一般病棟に移る患者さんと。「『ありがとう』と言われ、ここに来た意味を再確認できました」と佐藤(左)。



©MSF



イラク

2017年に終結した過激派組織「イスラム国」との戦闘の余波により、いまだ国内で避難生活を送る人が多く、医療サービスが全体的に不足。MSFは基礎医療から外科医療、リハビリ、心のケアなどを継続している。



佐藤の活動したアル・キンディ病院では重症患者の受け入れが続いた。

地元の人びとの認知度が高い HIV／エイズ支援 長年続けてきた実績を実感

畑井 珠恵(アドミニストレーター/マラウイ)

アフリカの南東部にあるマラウイのチラヅルという村で、約5カ月間、財務・人事を担うアドミニストレーターとして活動しました。MSFはチラヅルで、主にHIVに感染した重症の患者さんの治療と心のケア、そして感染防止の啓発活動に取り組んでいます。また数年前からは若年層を対象とした活動にも力を入れています。というのも、HIVに感染しているという理由で、親の育児放棄(ネグレクト)にあたり、薬の服用に課題があったりする子どもたちがいることが分かったからです。

この活動では、学校が休みの日に、子どもたちに薬を飲むことの大切さを伝え、感染を予防するための性教育を行っていますが、その中で鍵となるのが、「Peers(ピアーズ)」と呼ばれるリーダーたち。当地人たちもHIV感染者ですが、薬の服用によって普通の生活を送ることが可能になっています。彼らが、同じ立場にある「仲間(ピアー)」として、若年層の患者からの相談

役、そしてロールモデルとなり、病気と向き合っている子どもたちを支えていました。

私は人事のマネジャーとして、ドライバーやソーシャルワーカー、心理カウンセラー、HIV／エイズ専門の看護師などの現地スタッフの採用を担当しました。驚いたのは、どのポジションでも300～400人もの応募があったこと。選考はかなり大変でしたが、これだけ多くの人が応募してくれるのは、MSFがマラウイで1986年から活動を続け、現地の人びとに認知されているからこそだと実感しました。

実際、20年以上もMSFのプロジェクトで働く現地スタッフや、定年退職を迎える現地スタッフもいました。また、MSFで経験を積んだ現地スタッフが他団体へ転職することも多いようです。人事として働いていると、時には活動の縮小に伴う人員整理を行わざるを得ないときもありますが、今回は、このように長く働いているスタッフの存在を知ることができて、とてもうれしかったです。

財務と人事を共に担ったメンバーと(本人は右から2番目)。



©MSF



©Francesco Segoni/MSF

「Peers」のメンバーとHIV治療を受けている子どもたち。歌と踊りで1日の啓発活動を締めくくる。

マラウイ

マラウイは、巨額の財政赤字を抱えており、医療体制も破綻している。またHIV感染者数は約100万人と推定される。MSFはHIV／エイズに加えて、子宮頸がんの検診・診断・治療などを行っている。



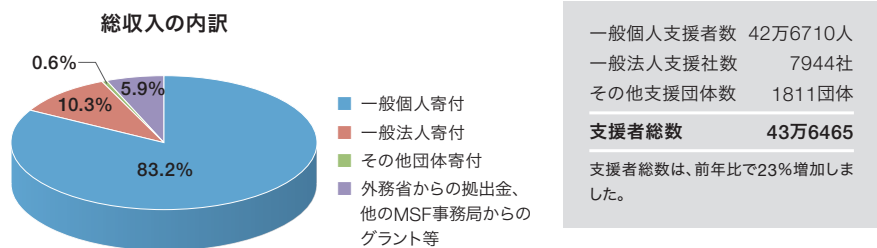
国境なき医師団(MSF)日本の2020年度の収益は、個人および法人支援者等からの寄付が130.5億円で、前年比で20.2%増加しました。外務省からの拠出金等を加えた経常収益は合計138.7億円となり、前年比で23.2%増加し、昨年に続きMSF日本の最高収益を記録しました。このうち新型コロナウイルス感染症および関連の活動への使途を限定した寄付には、27.1億円を頂きました(詳細は16ページ)。

一方、ソーシャル・ミッション費も、前年比で21.5%増加し、過去最大の110.8億円を計上しました。これ以外に、募金活動費、マネジメントおよび一般管理費、その他海外向け支援金等を合わせて、経常費用136.9億円を計上しました。その結果、最終収支は1.8億円の余剰となり、正味財産(剰余金)の期末残高は、11.8億円となりました。援助活動費は、日本での新型コロナウイルス感染症対応、およびオペレーション・センターを通して合計41の国と地域での援助プログラムに配分されました(詳細は11ページ)。

今後とも、この財務報告を通し、透明性のある説明責任に努めてまいります。

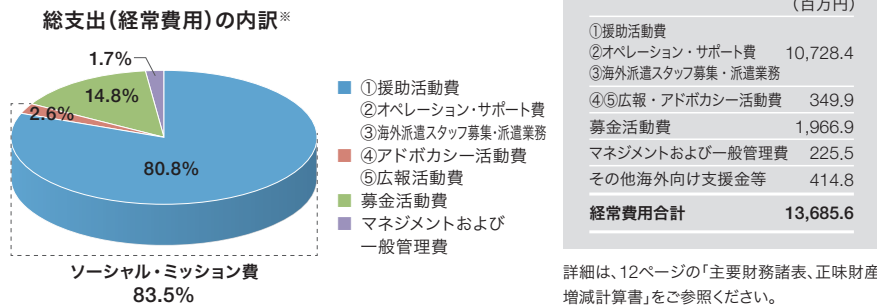
1. 総収入(経常収益)は138.7億円(前年比23.2%増)

総収入の内訳は、民間からの寄付収入が130.5億円。他に、外務省からの拠出金や他のMSF事務局からのグラントが計8.1億円、および、その他の収入が1320万円でした。なお、支援者数の内訳は、右記の通りです。



2. 総支出(経常費用)は136.9億円(前年比22.6%増)

活動別支出内訳は、右図の通りです。援助活動費、オペレーション・サポート費、海外派遣スタッフの募集・派遣業務、広報・アドボカシー活動費を合わせた、ソーシャル・ミッション費は前年比で21.5%増加し、計110.8億円。ソーシャル・ミッション・レシオとしては83.5%になりました。



ソーシャル・ミッションとは

MSFでは、「ソーシャル・ミッション」という言葉を「人道援助活動」という意味で使用しています。ソーシャル・ミッション・レシオとは、「人道援助活動」費用が費用全体*に占める比率のことで、「皆さまからお預かりした資金を、いかに医療・人道援助活動へ優先して充当しているか」を評価する尺度として使っています。

※「その他海外向け支援金等」を除く。

3. 人道援助プログラム支援金は総額105.2億円(前年比23.3%増)

MSF日本は2020年度において、資金配分協定RSA-4(the 4th MSF Resource Sharing Agreement)に基づき、全てのオペレーション・センター(MSFフランス、MSFスペイン、MSFスイス、MSFオランダ、MSFベルギー)とMSF WaCAに対し、新型コロナウイルス感染症危機対応募金を含む総額105.2億円の支援金を配分しました。

4. 監査体制について

MSF日本では、会計および業務全体に対して監事による監査(右参照)とともに、外部の監査法人(あずさ監査法人)に依頼して、日本の会計監査を受けています。ならびに、MSF国際版財務報告書(スイス会計基準)のうち、日本の部分に関しても同法人の監査を受けています。



(注)個別数値は四捨五入して表記しているため、内訳の合計が総数に合わないことがあります。以下のページも同様。

付表 1. MSF日本による2020年度の援助活動費の配分先

MSF日本が2020年度に拠出した援助活動費105.2億円は、41の国と地域の各プログラムに配分されました。以下は配分先の例です。

	国/地域	金額 (百万円)	2020年度の主要プログラム例 (下記プログラム例のほかに、各地で新型コロナウイルス感染症への対応も行いました)	新型コロナウイルス 感染症危機対応募金 配分先*
アフリカ	コンゴ民主共和国	644.3	暴力被害者支援/心のケア/エボラ出血熱/コレラ/はしか	○
	ナイジェリア	632.5	暴力・性暴力被害者支援/母子保健/栄養失調	○
	中央アフリカ共和国	602.0	暴力・性暴力被害者支援/栄養失調/マラリア/はしか	○
	マリ	512.9	紛争による負傷者治療/基礎医療/心のケア	○
	南スーダン	398.3	紛争による負傷者治療/難民・国内避難民への基礎医療/母子保健	○
	カメルーン	350.8	コレラ/栄養失調/心のケア/小児科医療/緊急医療	○
	ニジェール	350.2	小児科医療/栄養失調/マラリア/難民・国内避難民への基礎医療	○
	チャド	328.0	母子保健/産科医療/心のケア/栄養失調/はしか	○
	ケニア	281.5	産科医療/性暴力被害者支援/結核/HIV/エイズ	○
	リベリア	250.0	小児科医療/HIV/エイズ/啓発活動	○
このほか、ブルキナファソ、コートジボワール、ウガンダ、スーダンなど8カ国に9.6億円が配分されました。				
計		5,306.6		
中東	イエメン	1,320.8	紛争による負傷者治療/基礎医療/コレラ/はしか/栄養失調	○
	パレスチナ	691.1	紛争による負傷者治療/基礎医療/心のケア	○
	ヨルダン	278.4	シリア・パレスチナ難民への医療援助/再建外科・心のケア	○
	イラン	201.2	HIV/エイズ/C型肝炎/結核/産科医療/家族計画/心のケア	○
	レバノン	180.0	シリア難民への医療援助/心のケア/大規模爆発時の緊急援助	○
	イラク	48.2	国内避難民への基礎医療/心のケア/産科医療/栄養失調	○
	シリア	45.2	紛争による負傷者治療/国内避難民への基礎医療	○
計		2,765.0		
欧州	スペイン	50.0	新型コロナウイルス感染症対応のみ	○
計		50.0		
北米・中南米	ハイチ	357.8	外科/やけど/暴力・性暴力被害者支援/産科医療	○
	ベネズエラ	192.2	マラリア/暴力・性暴力被害者支援/心のケア	○
	コロンビア	64.0	移民・国内避難民への基礎医療/心のケア/移動診療/性暴力被害者支援	○
	ペルー	48.0	新型コロナウイルス感染症対応のみ	○
	米国	3.3	新型コロナウイルス感染症対応のみ	○
計		665.3		
アジア	バングラデシュ	409.7	ロヒンギャ難民への医療援助/心のケア	○
	パキスタン	299.3	新生児・小児医療/栄養失調/皮膚リシェムニア症/C型肝炎	○
	アフガニスタン	290.5	産科医療/緊急外来/薬剤耐性結核	○
	フィリピン	154.0	子宮頸がんワクチン接種/家族計画/産科医療/性暴力被害者支援	○
	インド	88.0	結核/心のケア/栄養失調/HIV/エイズ/性暴力被害者支援/C型肝炎	○
	日本	5.9	新型コロナウイルス感染症対応のみ	○
このほか、カンボジア、ミャンマー、マレーシアの3カ国に1.5億円が配分されました。				
計		1,395.8		
オセアニア	ババニューギニア	339.0	結核/HIV/エイズ	
計		339.0		
総計		10,521.8		

※ MSF日本が拠出した新型コロナウイルス感染症危機対応募金は、上記の表内の○で示した26の国と地域に加えて、コートジボワール、ウガンダ、スーダン、マラウイ、ミャンマーの合計31の国と地域に配分されました(詳細は16ページ)。

付表 2. MSF日本による2020年度の使途指定寄付の配分先

2020年、MSF日本は使途指定寄付として、下記の28.1億円を受け付けました。

使途指定内容	金額(千円)	配分された国と地域
新型コロナウイルス感染症危機対応募金	2,708,628	付表1の配分先参照
「緊急チーム」募金	77,331	イエメン
2019年感染症緊急対応	16,603	コンゴ民主共和国
シリア緊急援助	3,120	シリア
ロヒンギャ難民緊急援助	1,941	バングラデシュ
中央アフリカ緊急支援	549	中央アフリカ
ナイジェリア緊急援助	259	ナイジェリア
東京マラソン2020チャリティ	32	ヨルダン(アンマン)
総計	2,808,464	

上記のほかに、コンゴ民主共和国でのエボラ出血熱対応に対し、外務省から約2億7953万円の拠出を受けました。

*MSF日本の財務諸表の詳細は公式ウェブサイトでご覧いただけます。
Full set of Financial Statements in English is available on our official website.

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

正味財産増減計算書

自 2020年1月1日 至 2020年12月31日

(単位:円)

科 目	当 年 度		前 年 度		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減	増減比
I. 一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
(1)経常収益						
① 寄付収入(財務諸表注記 1(3) 参照)	13,050,103,455	100.0%	10,852,784,410	100.0%	2,197,319,045	20.2%
一般個人寄付	11,539,600,859	88.4%	10,244,785,008	94.4%	1,294,815,851	12.6%
一般法人寄付	1,424,682,326	10.9%	539,999,588	5.0%	884,682,738	163.8%
その他団体寄付	85,820,270	0.7%	67,999,814	0.6%	17,820,456	26.2%
② 助成金等による収入	806,586,772		401,397,652		405,189,120	100.9%
外務省国際機関等拠出金(財務諸表注記 10 参照)	279,527,952		49,366,008		230,161,944	466.2%
他のMSFからのグラント	527,058,820		352,031,644		175,027,176	49.7%
③ その他の収入	13,234,340		3,135,492		10,098,848	322.1%
アソシエーション会費収入	758,400		550,470		207,930	37.8%
利息収入および評価益等	12,475,940		2,585,022		9,890,918	382.6%
経常収益 合計	13,869,924,567		11,257,317,554		2,612,607,013	23.2%
(2)経常費用(財務諸表注記 1(6) 参照)						
ソーシャル・ミッション (①+②+③+④+⑤)	11,078,389,799	83.5%	9,120,893,412	84.0%	1,957,496,387	21.5%
① 援助活動費	10,521,763,892	79.3%	8,542,661,646	78.7%	1,979,102,246	23.2%
人道援助プログラム支援金(財務諸表注記 10 参照)	10,515,859,451		8,528,685,292		1,987,174,159	23.3%
その他の人道援助活動費	5,904,441		13,976,354		△ 8,071,913	△57.8%
② オペレーション・サポート・プロジェクト	70,016,073	0.5%	97,092,593	0.9%	△ 27,076,520	△27.9%
人件費	49,283,467		56,954,023		△ 7,670,556	△13.5%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	20,732,606		40,138,570		△ 19,405,964	△48.3%
③ 海外派遣スタッフ募集・派遣業務	136,664,757	1.0%	119,350,457	1.1%	17,314,300	14.5%
人件費	80,533,955		78,743,172		1,790,783	2.3%
SEEAP プロジェクト	11,704,544		-		11,704,544	-
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	44,426,258		40,607,285		3,818,973	9.4%
④ アドボカシー活動費	19,335,706	0.1%	18,379,734	0.2%	955,972	5.2%
人件費等	19,335,706		18,379,734		955,972	5.2%
⑤ 広報活動費	330,609,371	2.5%	343,408,982	3.2%	△ 12,799,611	△3.7%
人件費	85,059,772		92,089,013		△ 7,029,241	△7.6%
ニュースレター・イベント等による広報活動費	156,455,946		143,940,635		12,515,311	8.7%
ウェブサイト管理費	8,982,928		24,907,594		△ 15,924,666	△63.9%
業務委託手数料等	47,302,397		33,385,338		13,917,059	41.7%
印刷費	627,318		111,933		515,385	460.4%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	32,181,010		48,974,469		△ 16,793,459	△34.3%
募金活動費	1,966,949,938	14.8%	1,514,433,411	13.9%	452,516,527	29.9%
人件費	171,224,327		143,691,984		27,532,343	19.2%
ファンドレイジング・キャンペーン費	1,346,362,480		932,143,157		414,219,323	44.4%
業務委託手数料およびシステム関連費	226,111,155		273,502,506		△ 47,391,351	△17.3%
通信および書類等発送費	79,691,377		51,814,881		27,876,496	53.8%
印刷費	25,086,417		18,036,756		7,049,661	39.1%
SEEAP プロジェクト	9,036,979		-		9,036,979	-
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	109,437,203		95,244,127		14,193,076	14.9%
マネジメントおよび一般管理費	225,477,099	1.7%	224,970,353	2.1%	506,746	0.2%
人件費	151,029,582		150,882,194		147,388	0.1%
アソシエーション関連経費(人件費を除く)	7,984,290		21,609,806		△ 13,625,516	△63.1%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	66,463,227		52,478,353		13,984,874	26.6%
その他海外向け支援金等	414,766,886	-	301,700,551	-	113,066,335	37.5%
DNDiへの支援金	28,094,859		21,310,160		6,784,699	31.8%
必須医薬品キャンペーン支援金	32,780,212		30,920,363		1,859,849	6.0%
MSFインターナショナル事務局経費	157,565,381		108,704,497		48,860,884	44.9%
MSF韓国事務所活動支援金	196,326,434		140,765,531		55,560,903	39.5%
経常費用 合計	13,685,583,722	100.0%	11,161,997,727	100.0%	2,523,585,995	22.6%
一般正味財産当期増減額	184,340,845		95,319,827		89,021,018	-
一般正味財産期首残高	991,137,475		895,817,648		95,319,827	-
一般正味財産期末残高	1,175,478,320		991,137,475		184,340,845	-
II. 指定正味財産増減の部						
1. 使途指定寄付金受入額	3,087,992,427		738,743,447		2,349,248,980	-
2. 一般正味財産への振替額	3,120,765,784		723,491,090		2,397,274,694	-
指定正味財産当期増減額	△ 32,773,357		15,252,357		△ 48,025,714	-
指定正味財産期首残高(財務諸表注記 2 参照)	32,773,357		17,521,000		15,252,357	-
指定正味財産期末残高(財務諸表注記 2 参照)	0		32,773,357		△ 32,773,357	-
III. 次期繰越正味財産期末残高	1,175,478,320		1,023,910,832		151,567,488	14.8%

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

貸借対照表

2020年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	増 減 比
I. 資産の部				
1. 流動資産				
現金および預金	3,551,329,306	2,129,418,761	1,421,910,545	66.8%
未収入金(財務諸表注記 6 参照)	344,035,419	219,290,460	124,744,959	56.9%
前払費用	10,477,275	11,869,282	△ 1,392,007	△11.7%
立替金	1,125,398	481,877	643,521	133.5%
その他流動資産	31,533,949	23,536,338	7,997,611	34.0%
流動資産合計	3,938,501,347	2,384,596,718	1,553,904,629	65.2%
2. 固定資産				
1)特定資産(財務諸表注記 3 参照)				
人道援助プログラム支援金積立資金	0	32,773,357	△ 32,773,357	△100.0%
2)その他の固定資産(財務諸表注記 5 参照)				
建物附属設備	8,952,589	17,949,288	△ 8,996,699	△50.1%
事務用什器・備品	33,645,255	38,623,068	△ 4,977,813	△12.9%
ソフトウェア	14,208,491	17,491,494	△ 3,283,003	△18.8%
長期差入保証金等	41,589,540	42,299,540	△ 710,000	△1.7%
固定資産合計	98,395,875	149,136,747	△ 50,740,872	△34.0%
資産合計	4,036,897,222	2,533,733,465	1,503,163,757	59.3%
II. 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	2,802,255,324	1,457,581,967	1,344,673,357	92.3%
預り金等	9,554,778	2,919,666	6,635,112	227.3%
流動負債合計	2,811,810,102	1,460,501,633	1,351,308,469	92.5%
2. 固定負債				
退職給付引当金(財務諸表注記 9 参照)	49,608,800	49,321,000	287,800	0.6%
固定負債合計	49,608,800	49,321,000	287,800	0.6%
負債合計	2,861,418,902	1,509,822,633	1,351,596,269	89.5%
III. 正味財産の部				
指定正味財産(財務諸表注記 3 参照)	0	32,773,357	△ 32,773,357	△100.0%
一般正味財産	1,175,478,320	991,137,475	184,340,845	18.6%
正味財産合計	1,175,478,320	1,023,910,832	151,567,488	14.8%
負債および正味財産合計	4,036,897,222	2,533,733,465	1,503,163,757	59.3%

財務報告 (財務諸表に対する注記)
Financial Reports (Notes to Financial Statements)

＊MSF日本の財務諸表の詳細は公式ウェブサイトでご覧いただけます。
Full set of Financial Statements in English is available on our official website.

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 財務諸表の作成基準

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産 定額法によっている。

耐用年数

建物附属設備および什器 3～5年

器具備品およびビデオ機器 3～5年

②ソフトウェア 定額法によっている。

耐用年数 3～5年

(3) 収益の認識

寄付収入は原則として、現金主義に基づき認識している。

現物寄付の扱い

MSF日本は金銭以外にも、現物寄付として、医薬品、IT機器、ソフトウェアの支援を受けている。これらの現物寄付は取得時に合理的に価額を見積もり、「寄付収入」として認識し、事業供用時に費用を計上している。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員に対する退職金の支給に備えるため、退職金規定に基づく期末要支給額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

(6) 経常費用について

費用については主要な活動別に区分して表示している。

①ソーシャル・ミッション

人道援助活動費用、活動のためのスタッフ募集等、医療及び研究・開発、広報およびアドボカシー費用など活動をサポートする費用

②募金活動費

③管理部門費

④その他MSF海外オフィス費用及び必須医薬品キャンペーン・新薬開発イニシアティブへのサポート費用

2. 基本財産および特定資産の増減額ならびにその内訳

基本財産および特定資産の増減額ならびにその内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	-	-	-	-
小 計	-	-	-	-
特定資産	32,773,357	-	(32,773,357)	-
小 計	32,773,357	-	(32,773,357)	-
合 計	32,773,357	-	(32,773,357)	-

3. 基本財産および特定資産の財産等の内訳

基本財産および特定資産の財産等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産	-	-	-	-
小 計	-	-	-	-
特定資産	-	-	-	-
小 計	-	-	-	-
合 計	-	-	-	-

4. 担保に供している資産

該当事項はない。

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当年度末残高
建物附属設備	51,494,334	42,541,745	8,952,589
事務什器備品	109,082,665	75,437,410	33,645,255
什器	21,031,294	19,041,697	1,989,597
器具・備品	81,537,742	49,882,084	31,655,658
ビデオ機器	6,513,629	6,513,629	-
ソフトウェア	93,486,238	79,277,747	14,208,491
総 計	254,063,237	197,256,902	56,806,335

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収入金	344,035,419	-	344,035,419
総 計	344,035,419	-	344,035,419

7. 保証債務等の偶発債務

該当事項はない。

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	金 額
経常収益への振替額	3,120,765,784
総 計	3,120,765,784

9. 退職給付引当金

(1)採用している退職給付制度の概要

内部規定に基づき、退職一時金制度を設けている。

(2)退職給付債務およびその内訳

退職給付債務 49,608,800円、退職給付引当金 49,608,800円

(3)退職給付費用

14,258,800円

10. 当年度の人道援助プログラム支援金の配分内訳

(単位:円)

	国内支援者からの寄付	外務省からの拠出金	MSF韓国からのグラント	プログラム支援金合計
MSFフランス	6,125,658,407	158,919,393	321,595,507	6,606,173,307
MSFスペイン	2,042,100,000	-	-	2,042,100,000
MSFスイス	510,500,000	-	-	510,500,000
MSFオランダ	510,500,000	120,886,144	-	631,386,144
MSFベルギー	510,500,000	-	-	510,500,000
MSF WaCA	215,200,000	-	-	215,200,000
総 計	9,914,458,407	279,805,537	321,595,507	10,515,859,451

11. 重要な後発事象

該当事項はない。

新型コロナウイルス感染症対応報告(2020年度)

2020年、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、
国境なき医師団(MSF)は1月から緊急援助活動を開始し、
3月からは「新型コロナウイルス感染症危機対応募金」の受付を始めました。
活動および財務のご報告をいたします。

活動概要

MSFは2020年1月に香港で新型コロナウイルス感染症に関する対応を開始。その後世界各地での感染拡大に伴い、既存の医療援助活動を適応・強化するとともに、6月までの間に多くの活動地で新型コロナウイルス感染症に対応するための新しいプロジェクトを開始しました。この対応のために新しく援助活動を開始した国と地域は日本を含む22に上り、かつてない活動規模となりました。

主な活動は下記の通りです。

- ①保健当局を支援し、新型コロナウイルス感染症に対する医療援助の提供
- ②弱い立場に置かれた健康リスクの高い人びとの援助
- ③医療従事者の安全確保と、新型コロナウイルス感染症以外の医療課題への継続援助

活動資金

2020年3月、新型コロナウイルス感染症への医療援助活動および感染症拡大の影響に伴うその他の援助活動に用途を限定した「新型コロナウイルス感染症危機対応募金」の受付を開始しました。活動規模の拡大や物資の価格高騰などを受け、1億5000万ユーロ(約182.9億円※1)の調達を目標に※2、そのうち日本では29億円(約2380万ユーロ)を目標に※2ご支援を募りました。

※1 1ユーロ=121.9円で換算

※2 2021年4月5日現在

1. MSF日本での活動資金調達状況

2020年末までに延べ12万7393の個人・法人の皆さまから、総額27.1億円の寄付を頂き、寄付金は日本での新型コロナウイルス感染症対応に使われるとともに、オペレーション・センターを通して30の国と地域のプログラムに配分されました(詳細は11ページ付表1の配分先)。

個人寄付者数	延べ12万4193人
法人寄付社数	延べ3200社
(単位:百万円)	
新型コロナウイルス危機対応募金 寄付入金額	2,708.6
MSF韓国、MSF米国からのグラント	3.7
計	2,712.4
オペレーション・センターへ配分した金額	2,706.5
日本での活動に充てた金額	5.9 ※3
計	2,712.4

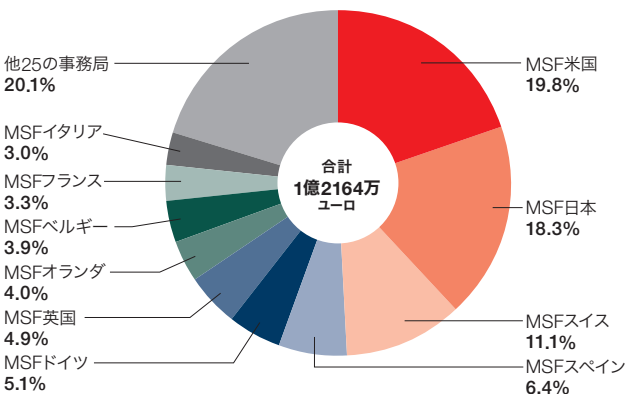
※3 日本での活動には、日本で調達した寄付金からの約547万円にMSF米国からのグラント約44万円を加えた約590万円が充てられました。

2. MSF全体での活動資金調達状況

世界35の事務局で2020年末までに総額1億2164万ユーロの寄付を頂きました。日本での寄付収入27.1億円(約2220万ユーロ)は全体の18.3%を占め、世界各地での新型コロナウイルス感染症対応への大きな支えとなりました。

新型コロナウイルス感染症危機対応募金事務局別拠出額

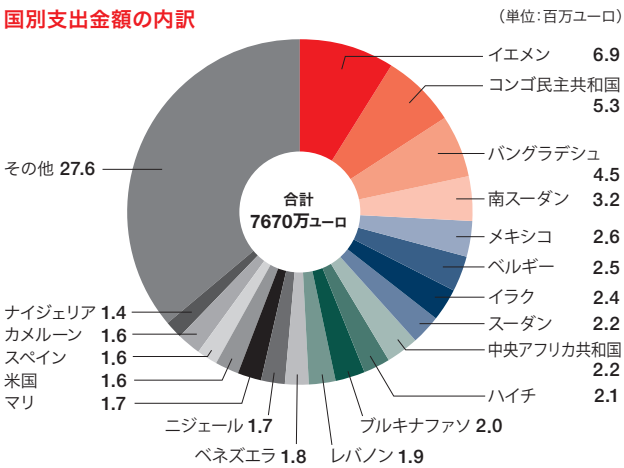
(単位:百万ユーロ)			
MSF米国	24.1	MSFオランダ	4.9
MSF日本	22.2	MSFベルギー	4.7
MSFスイス	13.4	MSFフランス	4.0
MSFスペイン	7.8	MSFイタリア	3.7
MSFドイツ	6.3	他25の事務局	24.5
MSF英国	6.0	合計	121.6



国別支出状況

支援金は、主に医療体制がぜい弱な地域や紛争地など、専門の治療施設や救急医療サービスなどが不足している国や地域に配分されました。2020年8月までの支出総額は7670万ユーロに上り、イエメン、コンゴ民主共和国、バングラデシュ、南スーダンでの活動費用が約4分の1を占めました。そのほか8月までの国別支出金額の内訳は以下の通りです。皆さまから頂きました寄付金は引き続き各地の新型コロナウイルス感染症およびその関連の対応活動に役立てさせていただきます。

国別支出金額の内訳



人・物資面での課題と対応

感染の拡大に伴う国境封鎖や移動制限、物資不足によって、MSFはスタッフの移動や物資調達の面で大きく影響を受けました。移動手段が大幅に減少したことで、2020年6～8月の海外派遣スタッフの出発は前年の同時期に比べて約30%減少し、一方で移動時間や経費は増加。既に活動地にいた海外派遣スタッフの契約延長、現地スタッフのサポートなどにより、活動継続に努めました。

物資調達の面では、マスクやガウンといった個人用防護具などの世界的な需要拡大に伴い、一時的に供給が追いつかない時期がありました。物流センターでは新しい業者への交渉と調達を、活動地では現地調達を試み、7月までには十分な物資を確保しました。また、6月～8月、新型コロナウイルス感染症対応に特化した物品は、活動全体で調達した物品の約44%を占めました。

2020年、MSF日本事務局では、
日本の皆さまに人道援助へのご関心を寄せていただくため、
以下のキャンペーンやイベントなどを実施しました。

広報キャンペーン

「いまこそ、国境を越える想像力を。」



2020年、新型コロナウイルス感染症は、日本にもステイホームや医療崩壊のリスク、物資不足などをもたらしました。一方、世界では、新型コロナの流行以前から医療施設が破壊され医療を受けられない、ステイする安全な家がない、物資が足りなくて命を落とす人びとがいます。新型コロナの脅威を全世界で共有したいいまこそ、国境を越えて想像力を働かせ、人道危機の下に暮らす声なき人びとに思いをはせてほしい、そんな願いを込めた広報キャンペーン「いまこそ、国境を越える想像力を。」を実施しました。
日本の風景に世界のさまざまな人道危機のイメージを映し出した動画や、スタッフの証言インタビューを掲載した特設ウェブサイト、オンラインイベントを通じて情報発信をしました。

プロモーション期間：2020年11～12月
ウェブサイト: www.msf.or.jp/souzou/



「人道援助 कांग्रेस東京2020

コロナ禍における人道援助とその課題」



紛争の長期化、難民・避難民の増加、気候変動、感染症の大流行一。人道援助を取り巻く環境は変化を遂げ、またナショナリズムの台頭や対テロ政策などが活動に重くのしかかる現実があります。人道援助の現在について日本でも議論を深めようと、MSFは「人道援助 कांग्रेस東京」の開催を決め、今回はオンラインで実施しました。「コロナ禍における人道援助とその課題」をメインテーマに、医療への攻撃、新型コロナ医薬品の公平なアクセス、イエメン危機に関するセッションを設け、国際機関や研究機関などから国内外の有識者が登壇。参加者は、援助団体や政府機関、学生など、各セッションで120から150人に上り、活発な議論が実現しました。

開催期間：2020年11月26～27日
ウェブサイト: www.msf.or.jp/congress/

「人道援助 कांग्रेस東京2021」を2021年5月13～14日に開催予定。



皆さまのご支援、ありがとうございました

2020年、国境なき医師団(MSF)日本は、42万6710人の個人、9755の企業・団体の皆さまからご支援を頂き、世界各地でのMSFの医療・人道援助活動に資金を提供することができました。

個人支援者		支援企業・団体
明穂 瑞拡	新里 真美子	三菱商事株式会社
浅井 恒彦	杉山 利幸	ソニーグループ株式会社
池田 順子	鈴木 巖	株式会社プレーリードッグ
泉谷 タカ子	鈴木 國弘	株式会社フィネス
井関 榮一	鈴木 けい子	株式会社大和証券グループ本社
伊藤 文	鈴木 敏也	大和証券株式会社
伊藤 由美子	高尾 由紀	株式会社シグマ
上戸 彩	高野 隆	リンベル株式会社
宇土 俊彦	高橋 京子	三井住友建設株式会社
江副 敬子	孝橋 秩彦	三井住友建設株式会社 社員有志
江原 啓之	田中 律子	株式会社セゾン情報システムズ
遠藤 通	田村 俊郎	株式会社サザビリーグ
太田 建三	多和 やよい	株式会社エボスカード
太田 勢津子	樋泉 高明	株式会社木村洋行
太田 雅徳	富島 寛	株式会社JCU
大坪 和子	中嶋 久江	株式会社デグナー
小方 美紀子	中島 英雄	アークシステムワークス株式会社
岡本 利和	中野 壽夫	一般社団法人シェア基金
奥 郁子	中村 彰利	株式会社シェア・ワールド
尾上 誠司	中村 和也	株式会社アウレオ
角谷 キミエ	中村 光一	株式会社みずほ
笠茂 公弘	中山 雄司	ヤフー株式会社
加勢田 香代	那須 聡子	フォーク株式会社
勝田 知己	鍋田 美智子	三井物産株式会社
門 有二	西沢 高宏	三井物産株式会社 社員有志
川崎 壽江	羽岡 茂	一般社団法人田代基金
河田 貞子	花畑 潔	lucifer research株式会社
川西 節子	濱 晶子	株式会社ベネフィット・ワン
河辺 俊雄	林 暁兵	3909合同会社
菊地 翔	東 淑子	ニュースキンジャパン株式会社
岸本 和彦	広川 ミエ	COBLIN株式会社
北住 映二	福岡 顕	フジロック・フェスティバル事務局
木下 博子	福田 馨	汽罐部品製造株式会社
木下 究	福田 喜蔵	株式会社NANZUKA
工藤 園子	福田 まさゑ	株式会社インフォキュービック・ジャパン
久保 喜正	藤本 飛呂	マスターマインドコンサルティング合同会社
窪田 敏則	船木 雅彦	株式会社ジェーシービー Oki Dokiポイントプログラム
河野 信子	本多 大人	株式会社ゴールドウイン
小島 信子	増田 慎子	全国友の会
後藤 照美	町田 明美	株式会社内藤建築事務所
小林 敏雄	松浦 勝子	農事組合法人ヤマギシズム生活北海道別海実顕地
駒尺 貞江	松尾 享一	株式会社テムテック研究所
小松 昭子	水上 明子	株式会社ファンキー・ジャム
材井 あさ子	三村 桂子	株式会社オフィス・カラーサイエンス
才田 博幸	宮崎 和美	京セラ労働組合
齋藤 清助	無敵時間	株式会社ジャクエツ
境井 敬昌	村石 健	エムスリー株式会社
坂本 春美	森田 秀文	ポンド・ストリート
笹本 貞子	安村 茂男	株式会社大丸松坂屋百貨店
柴野 信子	山口 俊明	株式会社新居浜鐵工所
島田 幸一郎	葉 國璽	
	吉田 政人	

グーグル合同会社
公協産業株式会社
公益財団法人公益推進協会
株式会社CODE SHARE
アビデ株式会社
株式会社サンブランド
株式会社稲葉電機
宗教法人隆崇院
三井住友トラストクラブ株式会社
朝日鑄工株式会社
株式会社エフワン
八海醸造株式会社
高島株式会社
ブルームバーグ L.P.
株式会社東照
Assurant
PayPal Pte. Ltd.
有限会社木場工業所
株式会社名優
大須賀技建株式会社
有限会社アークアソシエイツ
ユニオンモーター株式会社
株式会社フライトワン
大産住宅株式会社
八千代電設工業株式会社
株式会社不二機販
株式会社アイキ
小華藥品株式会社
株式会社和泉エンジニアリングサービス
伊藤忠プラスチック株式会社
株式会社林家族
株式会社高山ジャパン
株式会社ナノエッグ
一般財団法人東野海外医療救護センター
株式会社ベストホークス
ジャンボパーキング株式会社
株式会社コンセプトアンドデザイン
株式会社アマン
有限会社シナリーフローラ
株式会社グランド・ワン
明治安田損害保険株式会社
いずみや不動産株式会社
兼一薬品工業株式会社
わくわくカンパニー株式会社
株式会社福岡銀行
株式会社佐藤製作所
アビームコンサルティング株式会社
株式会社ジャックス
医療法人一樹会 浅野眼科クリニック
道東地方環境整備興発株式会社
株式会社保険見直し本舗
東京海上日動火災保険株式会社 社員有志
東京海上ホールディングス株式会社
株式会社HOG
レイズラボ株式会社
グローバルマテリアルズエンジニアリング株式会社
株式会社オリエンタルランド
一燈国際特許事務所
株式会社講談社
株式会社ハウスパートナー

株式会社三
富士食品株式会社
デロイト トーマツ グループ 有志一同
東亜物産株式会社
リボーン・テクノス株式会社
CCCアートラボ株式会社
株式会社上野商会
シロアム会 田中稔眼科
前田歯科
杉本電機産業株式会社
THE SUNTORY UNION
医療法人豊和会 中谷診療所
株式会社プロテックエンジニアリング
小林興業株式会社
ペン株式会社
金氏高麗人参株式会社
株式会社日本財託
マルコ工業株式会社
株式会社消防試験協会
ACJ株式会社
医療法人松風会
株式会社コーラルヘルスケア
クリーンエネルギー株式会社
株式会社ゼネラルアサヒ
イケダ空調工業株式会社
医療法人宗和
医療法人緑明会
みつわ工業有限会社
公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団
公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
バーニソン合同会社
海星学園 如己の会
日本郵船株式会社
ノキアソリューションズ&ネットワークス合同会社
株式会社ワールドアセット
株式会社予詩
株式会社泰洋開発
株式会社マクロミル
公益社団法人日本医師会
メドピア株式会社
株式会社OEC
近喰診療所
株式会社日産フィナンシャルサービス
株式会社新興ハウス
辰美産業株式会社
株式会社興電舎
TMコミュニケーションサービス株式会社
株式会社Louange Tokyo
ピースフル・コンサート越谷
株式会社ビーメルシー
OMOTENASHI株式会社
株式会社山本サンライズ51
株式会社ジャックス
法照院
デスタン株式会社
株式会社シンクスコーポレーション
前田不動産株式会社
(株)宝機材
阪本薬品工業株式会社
株式会社中央商会

※大口の寄付を頂いた個人支援者さまのうち、謝辞掲載のご承諾を頂いた方のお名前を掲載しております
(五十音順、敬称略)。

前ページより続く

株式会社ツチヨシアクティ
医療法人社団 富銘医院
株式会社ソーゴー
一般財団法人世界聖典普及協会
株式会社コスモホーム
株式会社マカベ
有限会社稲垣工業所
ケイヒン株式会社
株式会社トーコネ
三ツ木建設工業株式会社
公益財団法人全国友の会振興財団
スクラップ会
社会医療法人北斗会
東亜電器株式会社
オリコグループ社会貢献ファンド
有限会社新井旅館
田形青果株式会社
ハルナビバレッジ株式会社
宗教法人カトリック煉獄援助修道会
株式会社エイチ・アール・オー
リアル建設株式会社
株式会社大松建設工業
医療法人結想会 産婦人科 ゆいクリニック
株式会社 Juemi
中島光三設計事務所
株式会社ものばんく

※大口の寄付を頂いた企業・団体のお名前を掲載しております。

プロボノ・現物寄付
モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所
クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業
ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所
ウイングアーク1st株式会社
株式会社セールスフォース・ドットコム
NHNテコラス株式会社
株式会社PR TIMES
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社／株式会社みらい翻訳
リアリーイングリッシュ株式会社
Sansan株式会社
インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社

※専門性の高いサービスや、施設の一時提供などを頂いた企業のお名前を掲載しております。

企業・団体・個人のご支援方法・事例

MSF日本の総収入の94.1%は民間の皆さまからの寄付で成り立っています(2020年実績)。
ご支援方法は、一般の寄付に加えて、さまざまなプログラムからお選びいただけます。

MSFコーポレートサポーター

MSFコーポレートサポーターとは、MSFの活動に対して、企業・団体としての賛同表明と、年間500万円以上の継続的なご支援、さらに社会に向けた活動紹介にご協力いただくプログラムです。

●事例紹介 株式会社シグマ
弊社は「総合映像企業」としてものづくりを通し、豊かな社会の創造、優れた文化の醸成、世界平和への貢献を目指すとともに、社員一人一人が一企業市民として社会的責任を果たしたいと考えています。弊社の創業理念「写真は豊かな文化と幸福の希求に根差す」と世界各国で展開している事業活動を踏まえ、MSFの中立性と公平性、独立性に基づく理念と広報・教育活動に深く共感し、10年以上にわたりMSFコーポレートサポーターを中心に、商品の売り上げの一部の寄付など、継続的に支援を続けています。



代表取締役社長
山本 和人

商品・サービスを通じた寄付

各企業の製品・サービスなどの販売活動を通じてご支援いただくプログラムです。企業理念やブランド力を生かし、ビジネスの成長と社会貢献の両立が可能です。

●事例紹介 株式会社プレーリードッグ
企業理念に「地球愛」を掲げ、マスク&マスクケースの売り上げから1点につき10円、エコバッグの売り上げから1点につき20円を寄付いただいています。



マッチングギフト

社員個人の寄付やアクション（ウオーキングやボランティア活動など）に対して所属する企業がマッチング寄付をすることにより、企業の社会貢献活動を促進するプログラムです。社員と企業が力を合わせて社会貢献活動に取り組むことにより、インパクトが大きくなることはもちろん、社内の一体感も高まります。

古い物を生かす寄付

家庭で使わなくなった品物の買い取りサービスを通じた寄付です。不用品の有意義な生かし方として、また送料無料で気軽に寄付できることから、「お宝エイド」やブックオフの「キモチと。」など、多くの方にご利用いただいています。

ポイント寄付

クレジットカードやメンバーシップのポイントなど、各企業のポイントプログラムを通じてご支援いただくプログラムです。ポイントの有意義な使い方として、また気軽に寄付できることから、幅広い層に人気です。

学校・地域・サークルなどの募金活動

学校や地域、趣味のサークル、有志の集まりなどで実施するチャリティ・イベントや募金活動を通じてご支援いただくプログラムです。MSFの援助活動を紹介した展示用写真パネルや、ポスター、募金箱の貸し出しもしています。

企業・団体によるご支援の窓口を設けています

企業・団体としてのご支援に関するご相談は、こちらまでお寄せください。

●メール: corporate@tokyo.msf.org ●電話: 0120-999-199 (平日9:00～18:00 土日祝日・年末年始休業 通話料無料)

ご遺産からの寄付

2020年、48人の方から遺贈寄付を、77人の方から相続財産からの寄付を、43人の方からお香典・供花代からの寄付を頂きました。心より感謝申し上げます。お一人お一人から託していただいた思いをしっかりと受け止め、世界のさまざまな場所で助けを必要としている人びとへの医療・人道援助活動のために大切にに使わせていただきます。

▶ 遺贈寄付

遺言により、遺産の一部または全てを特定の人に贈ったり、公益団体などに寄付したりすることを遺贈と言います。遺贈寄付によって、大切なご遺産を医療・人道援助活動に役立てていただくことができます。

▶ 相続財産からの寄付

相続された財産を寄付することによって、故人の優しさを医療・人道援助を通じて「つぎの命」として生かしていただく方法です。相続税の申告期限内に寄付を完了した場合寄付した財産には、相続税がかかりません。

▶ お香典・供花代からの寄付

葬儀に寄せられた香典や供花代のお返しに代えてMSFに寄付をし、会葬者の皆さまへは寄付の報告をもってお礼とする方法です。MSFから、香典・供花代をくださった方々へのお礼状をご用意させていただきます。

Staff Introduction

遺贈寄付専任担当をご紹介します。

遺言書の作成方法から注意すべきポイントまで、遺贈寄付について詳しくまとめた資料をご用意しています。また、お電話で個別のご相談もお受けしておりますので、お気軽にご連絡ください。



荻野 一信 おぎの かずのぶ

ご遺贈を検討される過程では、ご不安なことも出てくるかと存じます。ぜひお気軽にご相談ください。お待ちしております。



今尾 礼子 いまお れいこ

ご遺贈に金額は関係ありません。大事なお金をどう生かすか考える中で、アイデアを探す感覚でお気軽にお電話ください。

ご相談は
お気軽に

遺贈寄付ご相談ダイヤル

03-5286-6430

(平日10:00～17:00) 担当：荻野・今尾

メール：legacy@tokyo.msf.org

国境なき医師団日本(認定NPO法人)への寄付は、税制優遇措置の対象です

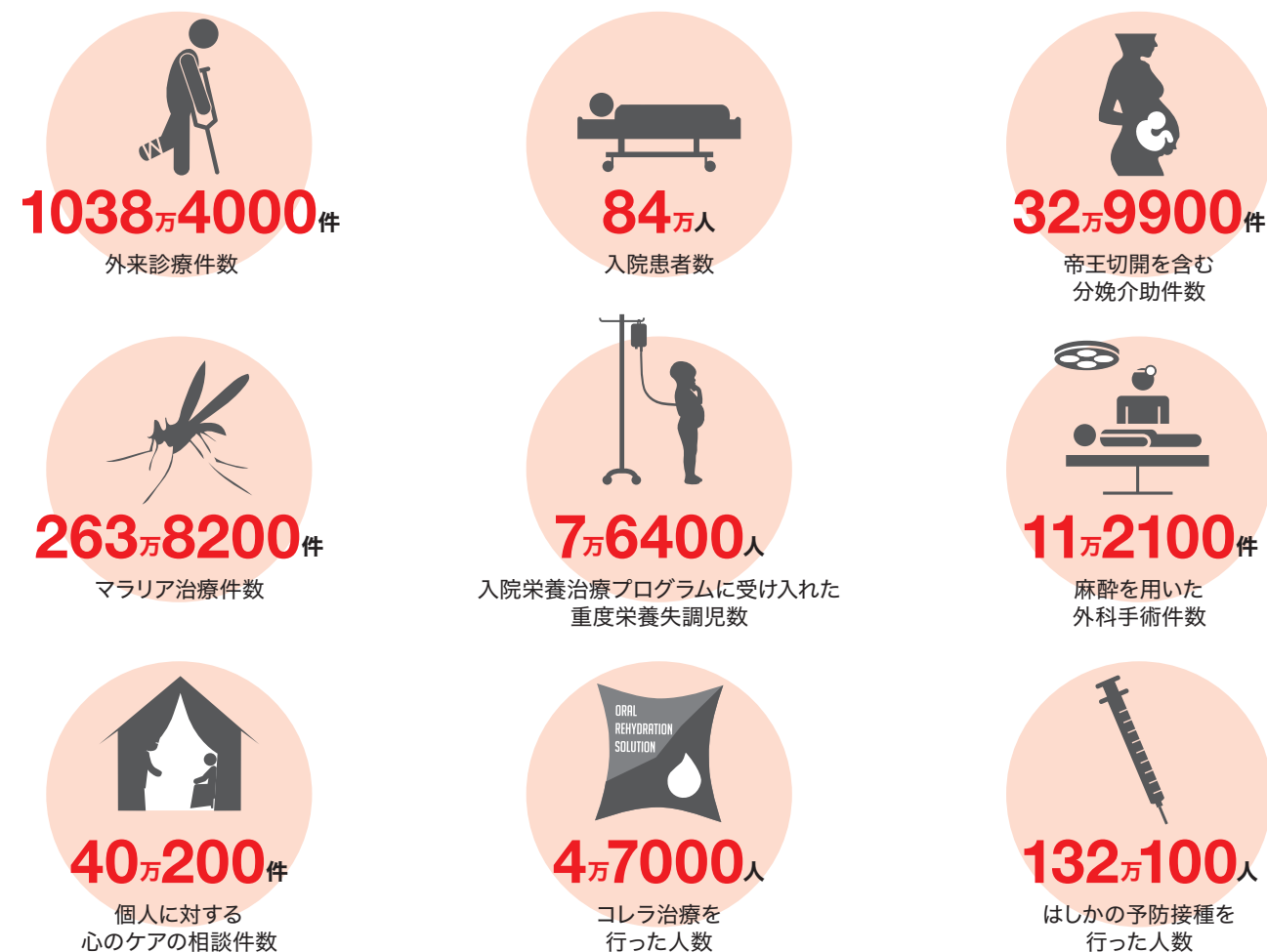
国境なき医師団日本への寄付は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれに定められている条件を満たすことで、優遇措置を受けられます。なお、優遇措置を受けるためには申告が必要です。詳しくは、最寄りの税務署にお尋ねください。

数字で見る活動ハイライト 2019

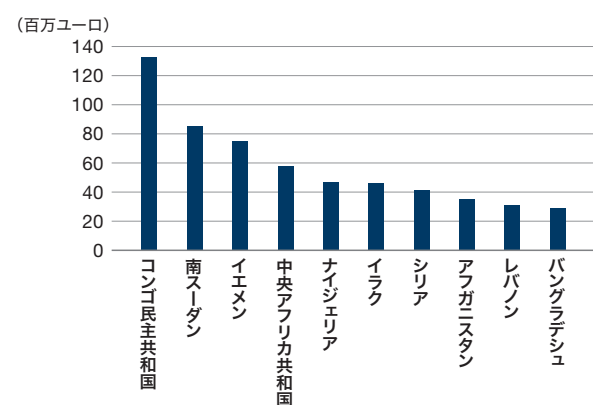
2019年、国境なき医師団(MSF)は72の国と地域で437件のプロジェクトを展開しました。
また、MSF全体の総収入16億3212万ユーロの96.2%は、650万人もの個人支援者を中心とする民間からの寄付でした。
全支出16億8462万ユーロの81%をソーシャル・ミッション費(10ページ参照)が占めました。

※ 22～23ページは、MSF全体の活動を網羅した『国際版活動報告書2019』(英文)の抜粋です。2020年の実績は2021年7月に発表の予定です。
※ 個別数値は四捨五入して表記しているため、各数値の合算と合計が異なる場合があります。

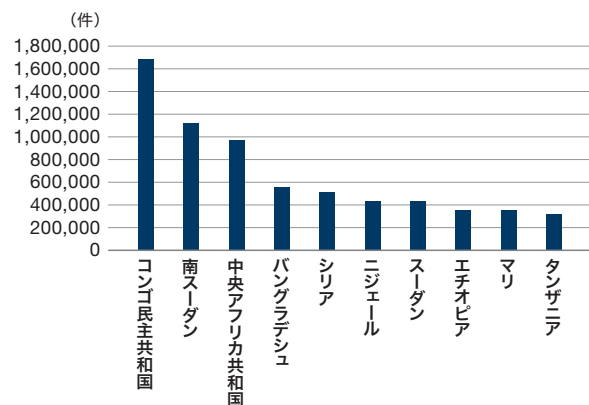
■ 活動実績



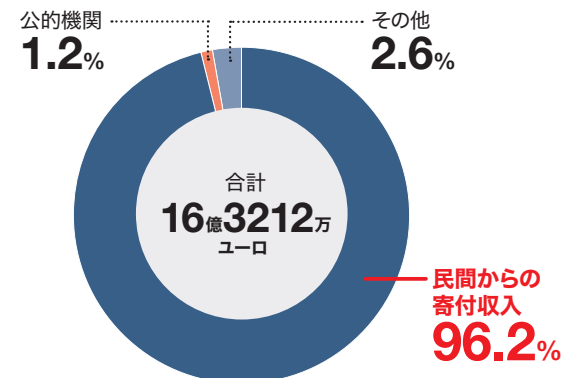
■ 活動規模が大きい10の国 【プログラム支出順】



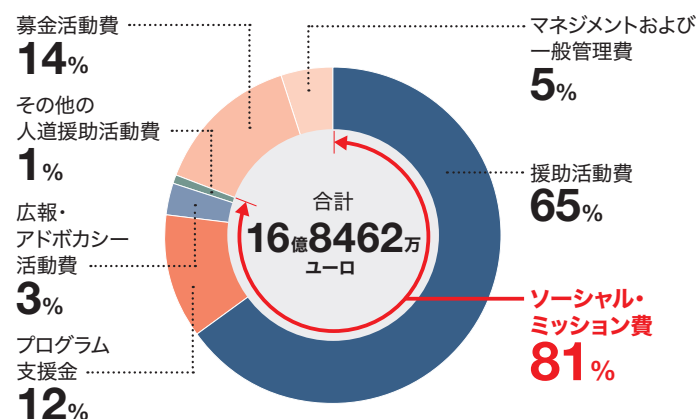
■ 活動規模が大きい10の国 【外来診療件数順】



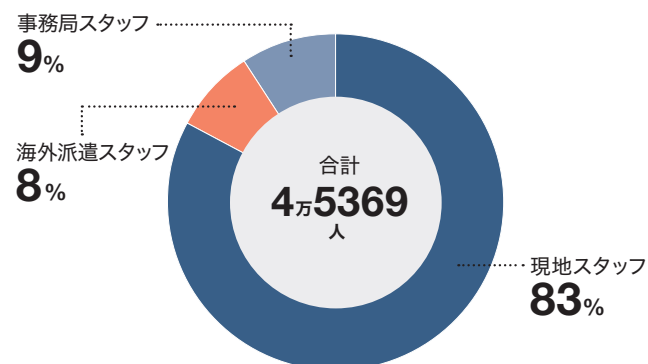
■ 収入の内訳



■ 支出の内訳



■ スタッフの内訳



■ 個人支援者数



国境なき医師団日本 Médecins Sans Frontières Japon

理 事

会長	久留宮 隆 (外科医)
副会長	谷口 博子 (元国境なき医師団日本事務局職員)
	ユ・ソヒ (内科医) Seuhee Yoo
専務理事	エリック・ウアネス (元国境なき医師団日本事務局長) Eric Ouannes
会計役	齊藤 哲也 (元国境なき医師団日本事務局職員)
理事	ジル・デルマス (疫学専門家) Gilles Delmas
	キム・テヨン (コーディネーター) Teayaung Kim
	高橋 健介 (内科医/疫学専門家)
	田岡 知明 (看護師)

監 事

リチャード・シーベル
Richard Sebel
(元国境なき医師団日本事務局職員)

(2021年3月末現在)

国境なき医師団(MSF)日本は1992年に設立され、1997年にMSFの事務局の一つとして独立組織となりました。1999年に特定非営利活動法人(NPO法人)として東京都の認証を受け、2002年には認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)として国税庁の認定を受けました。その後、2012年のNPO法の改正により所轄庁となった東京都から、2013年7月に1度目の、2018年7月に2度目の認定更新を受けています。

活動をご支援ください

国境なき医師団の活動は、皆さまからの寄付で実現しています。
私たちと共に、命を救う力になってください。

寄付の申し込み
資料請求は

0120-999-199
(通話料無料 平日 9:00~18:00)
(土日祝日・年末年始休業)
www.msf.or.jp



国境なき医師団日本(認定NPO法人)への寄付は、所得税、法人税などの優遇措置の対象となります。